

『日本語アブレイザル評価表現辞書(態度表現編)』の構築

—評価の多様性を捉えるための言語資源の開発—

佐野大樹

国立国語研究所 コーパス開発センター

toki.sano@ninja1.ac.jp

1 はじめに

社会に発信される評価は、ブログ等の普及により細分化・複雑化し、評価極性(肯定・否定)によって情報を分類するだけでは、その多様性を捉えられなくなっている。このような状況において、多様化する評価をどのような観点から捉え集約することが可能か検討すること、すなわち、評価の分類体系について検討することは、コミュニティ¹・個人の価値観や規範の変動・保持・崩壊・構築について検討する上で肝要な課題であると思われる。

しかしながら、評価という行為はそもそも主観的であり、これを客観的かつ汎用性のある形で体系化することは難しい。そこで佐野[1]では、評価の大部分は言語を介して行われることから、評価そのものに着目するのではなく英語のディスコース分析法の1つであるアブレイザル理論[2]の attitude の枠組みを日本語に適用できるよう再構築する形で、分類体系を考案した。

本稿では、この体系に基づき評価表現約 10,000 語を分類した『日本語アブレイザル評価表現辞書(態度表現編)』(以下、アブレイザル辞書・2011年公開予定)について説明する。また、アブレイザル辞書を用いることで評価の多様性をどのように捉えることが可能か、がん患者の語りに現れる「告知」と共起する評価表現について分析し説明する。

なお、評価表現には(1)「よい」「わるい」など肯定的態度・否定的態度を表すことで評価を示す表現(attitude)(2)「～かもしれない」など評価者の立場とは異なる立場がコミュニティに存在することを示唆することで評価を示す表現(engagement)(3)「～すぎる」「とても～」など程度を表すことで評価を示す表現(graduation)の3つの種類がある[2]。本稿では attitude に該当する表現の分類を扱い、これを態

度表現と呼び、他の評価表現と区別する。

2 辞書に掲載する態度表現の抽出

態度表現辞書は言語学[3]²・言語処理[4, 5]の立場から構築されているが、日常的・話し言葉的なものから専門的・書き言葉的なものまで、品詞を問わず網羅的に態度表現を収集できるかという点で課題がある[6]。

アブレイザル辞書の構築においては、国語辞典に掲載されている全ての見出し語・語義を確認し、この中から、人手(著者と作業員1名)で態度表現に該当するものを抽出した。社会に存在する全ての語が掲載されているわけではないが、ある言語の代表的な辞典から態度表現を網羅的に抽出することで、汎用性の高い辞書を構築できると考えた。

態度表現を抽出する辞典としては、岩波国語辞典(第五版)³を利用した。この辞典を利用したのは、言語資源協会より公開されている「岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004」「新聞記事 GDA コーパス 2004」と語義 ID によって、データの対応がとれる設計にするためである。

3 態度表現の分類

辞書構築に用いた態度表現の分類体系を図1に示す。アブレイザル理論で採用されているシステムネットワークと呼ばれる分類記述法[7]に則り考案したもので、品詞等を問わず辞典から抽出した表現全てを分類することができる。

態度表現の選択カテゴリは細密度(delicacy)の低いもの(図の左側)から高いもの(図の右側)へと細分化されている。上位選択カテゴリは下位選択カテゴリ

¹「コミュニティ」は、特定の価値観や規範を共有する個人の集合とする。

²中村[3]は感情表現を扱うものであり、評価表現という観点から感情表現を分類したものではないが、感情表現の多くは肯定的・否定的態度を示すため、有益な知見を得られる。

³見出し語 56,257 件と語義 85,442 件が掲載されている。原データの著作権は編者と岩波書店にある。第七版まで刊行されている。

間で共有される性質を示しており，上位選択カテゴリの性質を下位選択カテゴリが受け継ぐ．

図中の 肯定⁴と 否定 のように「[」で結ばれる選択カテゴリは basic system と呼ばれ，選択カテゴリが範列的關係にあることを示す．また，[評価極性]のように 肯定 と 否定 のような相互関係のある選択カテゴリの集合をシステム (system) と呼ぶ．[評価極性]と[内外]のように「{」によって結合されたシステムは simultaneous system と呼ばれ，各システムの選択カテゴリより 1 つ選択する必要がある．

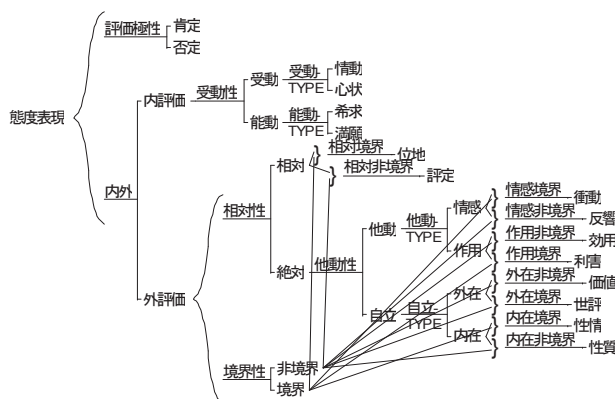


図 1: 態度表現の分類体系

なお，この分類体系に基づく態度表現の分類も全て人手（筆者と作業員 1 名）で行った．各選択カテゴリの分類基準の詳細，及び，各選択カテゴリを評価に使用する上での性質の違いなどについては，佐野 [1, 6] を参照されたい．以下，各選択カテゴリについて簡単に説明する．

3.1 [評価極性]

態度表現の分類では，[評価極性]ごとに独自の選択カテゴリを設けることが多い．例えば中村 [3] では，肯定 のカテゴリとして「喜」「好」などを，否定 のカテゴリとして「怒」「厭」などを設けている．しかし，このように分類した場合，カテゴリ間の対立関係（例えば「好」と「怒」の間には見られないが「好」「厭」の間には存在する対立関係）などを分類体系に反映させることが難しい．そこでアプレイザル辞書では，後述する [内外] の simultaneous system として [評価極性] を設けた．

3.2 [内外]: 感情か評価対象の特徴か

態度表現には (a)「楽しむ」「憤慨する」など評価対象に対する評価者の感情，もしくは「笑う」「泣く」など感情を表す行為を示す表現と (b)「有効」「悪い」

⁴選択カテゴリには を付け，システム名には [] を付ける．

など評価対象の特徴を示す表現がある．この性質の違いを反映するのが [内外] で，(a) が 内評価 ，(b) が 外評価 である．

3.3 内評価 の選択カテゴリ

内評価 はさらに以下に示す選択カテゴリに細分化される⁵．

受動 評価対象を感受している・した結果としてわき起こるもの（例「怒る」腹を立てる．／「安心」気にかかる事がなく，またはなくなって，心が安らかなこと．）

受動 : 情動 喜怒哀楽や感動など突発的なもの（例「怒る」）

受動 : 心状 心身の安定性・安全性・危険性を感受したことを示すもの（例「安心」）

能動 評価者の精神世界に評価対象を位置づけるもの（例「好む」心になくものを求めて喜ぶ．／「後悔」すでにしてしまったことについて，後になってくやむこと．）

能動 : 希求 評価者の趣向と評価対象を照合して愛情・希望・欲求等を示すもの（例「好む」）

能動 : 満願 目的の達成度や評価者がもつ規範と評価対象を照合して満足度を示すもの（例「後悔」）

内評価 をこのように分類した後，語義の類似性によってさらに細分化した．例えば 否定 & 心状 は以下のように細分化してある．

表 1: 否定 & 心状 の細分化の一部

選択カテゴリ	具体例
ショック	消え消え・堪(こた)える・ショック
恐怖	脅える・胸震い・縮み上がる
心配・不安	危惧・懸念・心配・青息吐息
焦り・苛立ち	苛苛・焦れる・焦慮・苛つく
動揺	当惑・慌てる・倉皇・狼狽
悩み	沈む・懊悩・思い詰める・蹉跎
鬱気	気鬱・メランコリー・物憂い
失意	挫ける・へこたれる・べしゃんこ
乱心	狂乱・乱心・惑乱・騒ぐ
苦しみ・つらさ	苦悶・悶絶・辛い・四苦八苦

3.4 外評価 の選択カテゴリ

3.4.1 評価表現の相対性・他動性等に関する分類

外評価 はさらに，[相対性]と[境界性]という 2 つのシステムによって分類される．[相対性]の選択カテゴリとその下位選択カテゴリを以下に示す．

相対 コミュニティに存在する他のグループ要素との比較を必須とするもので，評価対象が属するグループのメンバーから当該の対象がどれだけ異質的・普遍的であるか比較するもの（例「創見」今までにない，新しい見解．初めて考え出した意見．／「全盛」一番盛んな時期にあること．）

絶対 コミュニティに存在する他のグループ要素との比較を必須としないもの（例「ゆかしい」上品ですぐれており，人柄にひきつけられるような感じがする．／「くさい」いやなおいがする．／「造反」身内や仲間をうらぎること．／「有効」効力・効果があること／「賢い」頭がよい．才知がすぐれている．／「アンバランス」つりあいが取れていず，不安定なこと．／「汚名」わるい評判．不名誉．／「重要」価値・必要性などが大きいこと．）

⁵本稿で用いた語義は全て，岩波国語辞典（第五版）が典拠である．紙幅の都合上，語義の一部のみを掲載している場合もある．また，本稿では，同じ例を複数回挙げる場合があるが，語義は全て同じものとする．

絶対：他動 評価対象の他の参与者への影響を示すもの（例「ゆかしい」/「くさい」/「造反」/「有効」）

絶対：他動：情感 心理的影響に限定されるもの（例「ゆかしい」/「くさい」）

絶対：他動：作用 心理的影響に限定 されない もの（例「造反」/「有効」）

絶対：自立 他の参与者との関係を前提としないもの（例「賢い」/「アンバランス」/「汚名」/「重要」）

絶対：自立：内在 評価対象に内属するどの要素の評価かを限定して示すもの（例「賢い」/「アンバランス」）

絶対：自立：外在 評価対象に内属するどの要素の評価かを限定して示 さない もの（例「汚名」/「重要」）

3.4.2 評価表現の適用領域に関する分類

また、外評価 は [境界性] によって、以下の 2 つに細分化される。

境界 基本的に人間活動の主体・行為・生産物に限定して使用されるもの（例「創見」/「ゆかしい」/「造反」/「賢い」/「汚名」）

非境界 人間活動の範疇を超えて使用される、もしくは、非人間活動の範疇で使用されるもの（例「全盛」/「くさい」/「有効」/「アンバランス」/「重要」）

一般的には「物」として捉えられる人間活動の生産物まで 境界 の評価対象に含めたのは、生産物に対しても、主体や行為と同様の態度表現が用いられることが多いためである。例えば「非人道的」という表現は、(1) や (2) のように生産物にも多く利用される⁶。

(1) 絞首刑を採用しているが、電気椅子でもまだ
非人道的 だ

『辞書にでていない言葉の雑学事典』塩田丸男

(2) 核兵器は 非人道的 兵器である

『政治・経済』佐々木毅ほか

3.4.3 外評価 の下位選択カテゴリ

さらに、細密度の高い 外評価 の選択カテゴリを以下に示す。

位地 = 境界 & 相対 同じグループに属する他要素との比較を必須とする態度表現のうち、基本的には人間活動にのみ適用可能な表現。異端の程度・階級・行動の奇抜さなどに関する表現が該当する（例「創見」）

評定 = 非境界 & 相対 同じグループに属する他要素との比較を必須とする態度表現のうち、人間活動、もしくは、非人間活動に適用可能な表現。状態や時期の特異性などに関する表現が該当する（例「全盛」）

衝動 = 境界 & 情感 他要素への精神的な影響を示すことで評価を示す表現のうち、基本的には人間活動にのみ適用可能な表現。気質・行為・生産物が人を魅了するか・嫌悪感や憎しみを与えるかなどを示す表現が該当する（例「ゆかしい」）

反響 = 非境界 & 情感 他要素への精神的な影響を示すことで評価を示す表現のうち、人間活動、もしくは、非人間活動に適用可能な表現。人を含めた事物等が五感に与える刺激などを示す表現が多く該当する（例「くさい」）

利害 = 境界 & 作用 精神的な影響に限らず他要素への影響を示すことで評価を示す表現のうち、基本的には人間活動にのみ適用可能な表現。気質・行為・生産物が社会的活動に与える影響などを示す表現が多く該当する（例「造反」）

効用 = 非境界 & 作用 精神的な影響に限らず他要素への影響を示すことで評価を示す表現のうち、人間活動、もしくは、非人間活動に適用可能な表現。人を含めた事物等が与える物理的影響などを示す表現が多く該当する（例「有効」）

性情 = 境界 & 内在 評価対象に内属するどの要素の評価かを限定して示すもののうち、基本的には人間活動にのみ適用可能な表現。人の気質・能力や生産物の構成などに関する表現が該当する（例「賢い」）

性質 = 非境界 & 内在 評価対象に内属するどの要素の評価かを限定して示すもののうち、基本的には人間活動にのみ適用可能な表現。評価対象の構成・完全性・調和・状態などに関する表現が該当する（例「アンバランス」）

世評 = 境界 & 外在 評価対象に内属するどの要素の評価かを限定して示さないもののうち、基本的には人間活動にのみ適用可能な表現。容態、行動の倫理的正当さ、職務等の重要性などを示す表現が該当する（例「汚名」）

価値 = 非境界 & 外在 評価対象に内属するどの要素の評価かを限定して示さないもののうち、人間活動、もしくは、非人間活動に適用可能な表現。人を含めた事物等の大切さ・重要性などを示す表現が該当する（例「重要」）

4 アブレイザル辞書の適用

アブレイザル辞書を用いることで、ある人物・事象・行為等に対する価値観や規範がどのようなものか情報を抽出することが容易になる。特に、医療などコミュニティにおける価値観や規範が多様化しやすい課題について検討する際に有効な手段となる。ここでは、ディベックス・ジャパン⁷ の「健康と病いの語り」データベースに現れる「告知」という表現と共起する態度表現をアブレイザル辞書を用いて分析し、この点について議論する。

4.1 方法

「健康と病いの語り」データベースには、maximum variation sampling 法に基づいて選出された乳がん患者（42 名）・前立腺がん患者（49 名）へのインタビューが収録されている。まず、このデータベースから「告知」という表現の前後それぞれ 20 文字を抽出し、アブレイザル辞書を用いてここに含まれる態度表現を特定し分類した。なお、乳がん患者の語りでの「告知」の使用度数は 153 件、前立腺がん患者の語りでは 112 件であった。

4.2 結果

乳がんの語りでは 93 件、前立腺がんの語りでは 66 件の態度表現が確認された。選択カテゴリごとの内訳を図 2 に示す。

心状・世評 に該当する態度表現が、乳がん患者の語りでも前立腺がん患者の語りでも多い。具体的には、以下のような表現が用いられていた。

心状 不安/動揺/心配/辛い/慌てる/恐怖

世評 良い/丁寧/立派/偉い/駄目

⁶(1)・(2) の出典は、現在国立国語研究所を中心に構築している『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に収録予定のサンプルである。

⁷<http://www.dipex-j.org/>

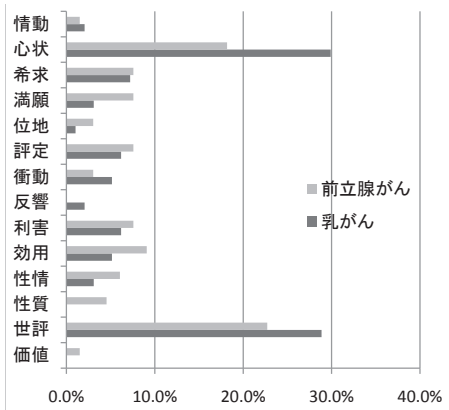


図 2: 「告知」に関する態度表現の分析

「告知」と 心状 が共起している文をみると、がん患者本人が受けた精神的な衝撃について語られているだけでなく、以下のように、家族が受けた衝撃について語られているものが複数ある。「告知」は医療従事者と患者だけの課題ではないことを確認することの重要性を指摘する発話だと考える⁸。

病院で告知を受けたときに一緒だったので、むしろ、わたしよりも夫のほうが動揺はしてたんですね。

もう自分と同じぐらいに主人も動揺して何を言っているかわからない

また、医療従事者と患者の「告知」に対する認識の違いについて語るものもある。医療従事者と患者の「告知」に対する価値観・規範についての調査にアブレイザル辞書は有効な資源となる可能性がある。

告知を受けたときに先生は2回目だから、そんなに動揺しないだろうという気持ちで告知をしたけれど、私が結構動揺したので、

「告知」と 世評 が共起している文をみると、以下の発話のように「告知」に対する価値づけを含む語が多い。患者によってどのような「告知」が望ましいか、もしくは「告知」自体が望ましいかどうか異なるだろうが、肯定的・否定的に価値づけされた語を集め事例集を作成すれば、医療従事者にとって参考となる資料となるのではないだろうか。

初発の告知はもう全然違うので、「再発と転移のときに限っては、もう治ることは難しいです」ということははっきり言われて、「で、これから、あなたがどう生きたいか教えてください」と、「で、その生きたいように生きられるように、私たちもお手伝いをします」というふうに先生に言われました。でも、私はそういうふうにはっきり言われたことによって、自分の要求を受け入れることができたので、そういうふう言ってもらえた告知で良かったなと思っているんですね。

ここでは比較的小規模のデータベースを使用して、「告知」と態度表現が共起する文を抽出したが、Web上の闘病記などからも 心情 や 世評 を観点とす

⁸以下、引用の出典はいずれも「健康と病いの語り」データベースである。

る評価情報を収集し、患者の視点から見た「告知」のありさまについて探索していきたいと考えている。

5 まとめと今後の展望

本稿では、アブレイザル辞書の構築方法、態度表現の分類、適用事例について述べた。今後は、アブレイザル辞書に engagement や graduation の表現、専門性や特殊性が高いドメインでしか現れない態度表現などを追加できればと考えている。さらに、言語の壁を越えて評価を分析できる辞書を構築するため多言語化について検討していきたい。

態度表現は、そもそも、コミュニティ・個人の価値観・規範の変動・保持・崩壊・構築のために用いられるものであり、その周辺には、社会的課題を探るうえで重要な情報を含むことが多い。アブレイザル辞書を用いることで評価の種類を細分化し、目的に必要な観点からの情報を集約し、情報抽出に活用して頂ければ幸いである。

謝辞 本研究では、特定非営利活動法人健康と病いの語りディベックス・ジャパンよりデータシェアリングによって提供されているデータを使用させて頂いた。また、国立国語研究所の資料整理等補助者の服部紀子氏にアブレイザル辞書の作成においてご尽力頂いた。ここに感謝する。

本研究は文部科学省研究費補助金若手研究 (B)「日本語「書き言葉らしさ・話し言葉らしさ」計測法の設計」(平成 21～23 年度、代表者: 佐野大樹)による補助を得ている。また「厚生労働科学研究費補助金・国民のがん情報不足感の解消に向けた『患者視点情報』のデータベース構築とその活用・影響に関する研究 (H22-3 次がん 一般 042 代表研究者・中山健夫)」の一環として行った。

参考文献

- [1] 佐野大樹 (2011a). 日本語における評価表現の分類～アブレイザル理論をベースに～, 『信学技報』110(400), NLC2010-33, pp.19-24.
- [2] Martin, J. R. and P. R. R. White (2005). *The Language of Evaluation: Appraisal in English*, Palgrave Macmillan: New York.
- [3] 中村明 (1979). 『感情表現辞典』六興出版.
- [4] 小林のぞみ・乾健太郎・松本裕治・立石健二・福島俊一 (2005). 意見抽出のための評価表現の収集, 『自然言語処理』12(2), pp.203-222.
- [5] 東山昌彦・乾健太郎・松本裕治 (2008). 述語の選択選好性に着目した名詞評価極性の獲得, 『言語処理学会第 14 回年次大会論文集』pp.584-587.
- [6] 佐野大樹 (2010). 評価表現分析法の提案 アブレイザル理論をベースとした日本語態度評価の分類・体系化, 評価表現の分類体系構築の試み: 日本語分析におけるアブレイザル理論 (attitude について) の再構築」配布資料, 日本機能言語学会秋期大会, 新潟大学.
- [7] Matthiessen, C. M. I. M. (1995). *Lexicogrammatical Cartography: English Systems*, International Language Sciences: Tokyo.
- [8] 佐野大樹 (2011b 予). 患者の語りにおける感情表現の使用傾向 『アブレイザル評価表現辞書 (態度表現編)』を用いた乳がん患者・前立腺がん患者の語りの分析, 第 27 回社会言語科学会研究大会, 桜美林大学.